

～霧降る森にアート降る、
霧降る谷は Art Full!～



左上から時計回りで小坂憲正さん(扉作家、建築家)、村上直樹さん(彫刻家)、渡辺良明さん(藝術祭事務局)、岡崎ひろみさん(ステンドグラス作家)、しまだともみさん(絵本作家)

キラフリコパン



キラフリコパンの藝術祭パンフレット

キラフリコパンの藝術祭が6月1日(金)から開催されます。

この藝術祭は今年で4回目を迎えます。今回は、藝術祭を主催する「キラフリコパン」の5名の皆さんにお話を伺いました。

● 藝術祭開催のきっかけは？

最初は、霧降に住んでいる近所さん8組くらいで始めました。霧降にはアーティストが多く、「みんなで何かできたらいいね」という気持ちからですね。今では参加者も20組以上になり、来場者も2,000名を超え、第1回の開催から倍以上の方が訪れてくれるようになりました。

● 藝術祭の特徴は？

作家がその会場にいることです。他の芸術祭ではなかなかないことです。そして、会場一つ一つではなく、藝術祭の期間中は、地域全体を通してひとつのアートとして感じてほしいですね。

また、見るだけでなく食べる芸術。「食」の藝術祭も行っています。期間中は参加店舗で趣向を凝らしたメニューが並びます。

● キラフリコパンについて

現在は15名で活動していますが、「キラフリコパン」には代表者がいません。全員がアーティスト。一人一人がそれぞれのセンスやエ

● 今後の目標は？

継続することが一番大変だと思っています。この小さな地域で自分たちだけで作っていくと始まった藝術祭。そこを忘れないようにしていきたいです。

そして、「霧降でおもしろいことやってるね」と、もっと皆さんに知ってもらいたい。最終的に、地域や社会に少しでもいい影響が与えられるようになればうれしいですね。

♡ インタビューを終えて

「単純にこのメンバーで一緒にいられる時間が楽しい」という言葉がとても印象的で、これが藝術祭を続けていく一番の原動力ではないかと感じました。

こんなすてきなアーティストたちに出会える身近な藝術祭。ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

キラフリコパンの藝術祭の詳細内容は「広報にっこう6月号」で紹介します。